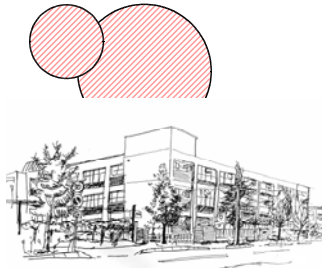


明星中学校だより

知と和と粘り



〒 070-0025 旭川市東5条1丁目

Tel 0166-26-0468 Fax26-0469

E-mail: myojyo@myojyo.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成23年10月3日 ◇第9号◇

明星祭 弁論・吹奏楽・生徒会イベント



スローガン入賞；
岸 謙佑君（3の2）
シンボルマーク入賞；
佐々木 良輔君（3の3）

	発表者	論題
1 年 生	杉村 海飛（1の1）	「ゴミの出し方について」
	宮澤 葵（1の1）	「病」
2 年 生	工藤 裕基（2の4）	「時間の大切さ」
	菅原 渚（2の1）	「大切な言葉」
3 年 生	神 ひなの（3の2）	「悲しみの向こうに…」
	佐々木良輔（3の3）	「言葉を選ぶ」

夏休みの課題だった弁論を基にして、学級予選を経た20名によって、9/6、一斉に学年弁論が行われました。その結果、各学年2名が金賞を受賞し、総勢6名が明星祭弁論発表に臨みました。本番まで何度も推敲を重ね、声の出し方、話し方等の練習を繰り返した結果、堂々とした見事な弁論を披露してくれました。大勢の人の前に立ち、自分だけが声を出すのは見た目以上の緊張感に包まれます。こういった練習（トレーニング）をすることなしに、「大人になったら、そのうち誰でもできるようになる」というのは妄想にすぎません。10/18（火）、市民文化会館で行われる中連「私の意見発表会」に出場するのは、神ひなのさんと決定されました。



吹奏楽発表『宝島』他



教育実習生も

生徒会イベ・斉藤会長を守る？生徒SP



生徒会イベント
藤原先生 握力62Kg



生徒会イベ・校長先生フリースロー

3本中2本成功

生徒会イベ・正解に盛り上がる3の3



新会長 米川さんの決意表明演説概要…私は、去年の後期から生徒会に入り、顧問の先生方、先輩、そして仲間と共に行事をこなしてきました。そのなかでわかったことは、一人では決してできなかった、ということです。…ハンドインハンド。手から手へ。私は、手から手へ渡るのは思いやりではないかと思えます。私達の思いやりをほんの少しでもユニセフ協会を通して伝えたいと思えます。…私は一年間の活動でわかったことを生かし、仲間を信頼し、助け合うことを胸に、新たなメンバーで明星中学校生徒会の名に恥じないよう一生懸命、頑張ります。

「悲しみの向こうに…」

神 ひなの



「二十万匹」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？これは実は、一年間に人間によって殺されてしまった捨て犬の数です。私はテレビのニュースで、この数字を聞いた時信じられませんでした。そして、ペットブームといわれている現在、ペットショップではさまざまな種類の犬が販売されている裏でこんなにもたくさんの罪なき命が殺されていることに驚いてしまいました。

さっそく、情報収集をしてみると得られる情報は心が重くなるものばかりでした。

「この犬アホだから。」と自分の犬を保健所に渡して、別の子犬を譲ってもらって帰っていく人、自分の犬と笑顔で記念撮影をしてその犬を捨てていく家族など、どれも人間の自分勝手な理由で犬たちが犠牲になっているのです。

最近では、捨て犬回収車というものもあるそうです。

捨てられた犬に待っているのは、死です。安楽死などではなく、二酸化炭素のガスを注入されて苦しみながら死ぬのです。ニュースでは、その様子を映像で流していました。犬たちの悲痛な鳴き声は、今でも耳に残っています。そして、あの声は一生忘れられないと思います。私は耐えられず、最後まで映像を見て受け入れることができませんでしたが、これが事実なんだと思うとすごく悲しいです。

これらの命は、ちょっとした努力で失われずに済んだのではないのでしょうか？また日本は「命を捨てる」という行為を止める取組をすべきではないのでしょうか？現在、ヨーロッパの先進国はペットショップを廃止して、気軽にペットを飼えないようにし、捨て犬を減らす取組を行っています。日本もこれを参考にしてみるのも良いと思います。また、私が考えたのは、ペットを飼うために免許を取らなければならない制度で、一年に一度は講習を受けに行き、ペットを捨てたり虐待をしたら懲役の罰則を受けなければいけないというものです。この方法だと、命を預かるという重みを実感することができ、もし何かの事情で飼えなくなったとしてもその人はペットを捨てずに新しい飼い主を探すようになると思うのです。もしかしたら、ペットを飼うためにわざわざ免許を申請する手続きが面倒だし、一年に一回講習を受けるのは大変だから反対という人もいるかも知れません。しかし、実際に命を育てるといのはそれ以上に面倒で大変なことなのです。かわいがるのと同時に命を預かる責任も持たなくてはならないのです。免許を取るのが面倒なら、ペットの世話もすぐに面倒になってしまうのではないのでしょうか。

一方、マスコミなどは「落ち込んでいる時に慰められて助かった！」とか、「常に癒しの存在となってくれるし、かわいい」といったペットを飼うことの良い面だけを報道しがちですが、「毎日犬の世話をしなければいけない」とか、「万が一病気にかかってしまった時の対処の状況」など大変な面も報道しなければいけないと思います。そうすれば、罪なき命を少しでも多く守り、悲しみの向こうに光り輝く希望が見えてくるのではないのでしょうか。

H23年度 後期生徒会体制

- 会長 米川 さや葉（2の2）
- 副会長 原 有平（2の1）
- 副会長 高橋 渚（2の4）
- 書記長 南條 聖花（2の2）
- 書記次長 戸田 莉子（1の2）
- 書記次長 河村 凜紗（1の2）
- 書記 凶所 英晃（1の2）
- 書記 松井 和（1の3）

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成23年10月3日 ◇第9号◇